

コンピュータ画像診断支援技術(CAD)の開発促進の実証研究

(株)ジェイマックスシステム、東京大学医学部附属病院、一般社団法人画像診断研究・振興・普及協会、
イーサイトヘルスケア株式会社

放射線科医を取り巻く環境

- 撮像装置の発達により多くの画像が発生し、読影を行う放射線科医の負担が増大している。
- CADに対する期待が高い一方、CADの使用経験があるユーザーは少ない。
注) CAD: コンピュータ画像診断支援

ASP型遠隔読影システムとCADの融合

- ASP型遠隔読影システム上でCADを動作させることにより、施設にCAD装置が無くてもCADを使用する事が出来るようになった。
- 事業終了後も引き続き6病院にて、CADの結果を画像診断に用いており、有効に利用されている。
- CADを使用したいという要望は市場にはあるが、CADを使った読影に対して保険点数はつかない事から、使用料をどう払うかという問題がある。

J-MAC System, e-Site Healthcare: CADをCloudサービスで展開

- 2012年4月に行われた日本医学放射線学会(JRS)に実機展示として出展。少ないながらも数名の読影医に使用して頂いた。
- CAD自体に興味はある施設は多いものの、費用面での問題があるため、遠隔読影システムのオプションとして位置付けてユーザー数を獲得する。
- 2012年度の引き合い数は4件。引き続きPR活動を強化する。

CAD結果画面



学会展示(JRS)

